こんにちは影〇茂〇です

3【完】

こんにちは影〇茂〇です　3【完】

EntsCat

https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=19259790

R-18, モ腐サイコ100, モブ霊, ♡喘ぎ, 男性妊娠, めでたしめでたし☆, モ腐サイコ小説50users入り

発作的に書いたモブ霊です。監禁描写、男性妊娠出産、♡喘ぎを含みます。倫理がまたもやアレ。今回で完結となります。お付き合いありがとうございました🌸

いつもいいねやブクマ、絵文字やコメントなどありがとうございます！とても励みになっています🌸
マシュマロもありがとうございます〜！https://marshmallow-qa.com/entscat?utm_medium=url_text and utm_source=promotion

こんにちは影◯茂◯です　3【完】

モブ@あーたん：こんにちは影山茂夫です。
今日は『わからせ』ってのやり方を教えて欲しくてLINEしました。
僕、『わからせ』ってまったく知らなくって……具体的にはどうしたらいいんでしょうか？

セリカツ：本来の用途とはちょっと違うけど、霊幻さんに影山くんが本気だって分かって貰う、ってことだよね？

悪霊：自分がシゲオのメスだって分からせるんだから本来の用途でもいいんじゃないのか

セリカツ：セクハラで訴えます

悪霊：お前がかよ

トメ@宇宙：それだわ、エクボちゃん。もう影山くんのものだと分からせてしまいましょう

悪霊：そしてお前はノッてくるのかよ
どうやるかだな

トメ@宇宙：孕ませましょう

悪霊：

セリカツ：

モブ@あーたん：さ、さすがにそれは……

トメ@宇宙：もはや目指すエンディングはおめでた婚　それしかな

いわ

モブ@あーたん：でも勝手に妊娠させるのは倫理的にちょっと……

トメ@宇宙：『お前は俺の身体が目当てなんだな』

モブ@あーたん：やりましょう

セリカツ：い、いいのかな……

悪霊：そもそも物理的に可能なのかよ？

モブ@あーたん：うん、最近どんどん超能力が強くなり続けてるし、全然余裕でできると思う

セリカツ：それ政府の人には言わない方がいいよ　ヨシフさん胃薬が増えちゃう

モブ@あーたん：ありがとうみんな、僕がんばって『わからせ』てくるね

トメ@宇宙：健闘を祈るわ☆

※※※※※

こんにちは影山茂夫です。
今日は監禁してる師匠を孕ませようと思います。
「師匠、僕の子を産んで欲しいんですが」
「え、そんな事できるのお前？いいよ、産んでやる」
いいん！！！！ですか！！！！
「むしろありがとな、俺に思い出を作ってくれて。その子がいれば俺はお前と別れても、ずっと幸せに生きていける」
微笑む師匠の周りにオモチャの兵隊が踊り狂ってるのが見えた。

※※※※※

モブ@あーたん：こんにちは影山茂夫です。福寿草のテールランプがメインディッシュの清掃です。

セリカツ：落ち着いて影山くん。霊幻さんがまた何か言ったんだね？

モブ@あーたん：別れても子供が居れば寂しく無いからありがとう、的な

トメ@宇宙：よし、結婚しちゃいましょう、もう

悪霊：瞳孔開いてんぞお前、落ち着け

トメ@宇宙：ヨシフさんに相談して式場押さえて、両家に招待状を送りましょう

モブ@あーたん：でも……勝手にいいのかな、師匠、結婚する気は無いって言ってたのに……

トメ@宇宙：でも結婚してもいいとは言ってたじゃない

モブ@あーたん：うーん……

トメ@宇宙：孕ませで『わからせ』は失敗したんでしょ？じゃあもう後は結婚で『わからせ』するしかないじゃない

モブ@あーたん：そうなのかな

セリカツ：影山くんは霊幻さんが嫌がっても、別れるつもりも離してあげるつもりも無いんだよね？

モブ@あーたん：１ミリも無いですよ。だって両想いだし。また師

匠が逃げたら原子の構造をバラしてでも探し出すつもり

セリカツ：たぶんそれ核分裂？とか言うやつだからやめたげてね。ヨシフさんの胃が穴空いちゃう。その時は俺たちが協力して何が何でも探し出すから

モブ@あーたん：いつもありがとうございます。ごめんね、迷惑かけて

セリカツ：いいよ自分たちの為でもあるから……もう霊幻さんを逃がすつもりが無いなら、結婚しちゃってもいいんじゃないかな

モブ@あーたん：あー……

セリカツ：早いか遅いかの違いじゃない？金銭的なことは政府からバックアップが出るし、それで霊幻さんが『わかって』くれるなら、それでいいと思うんだ

モブ@あーたん：じゃあ……挙げちゃいますか、結婚式！

トメ@宇宙：挙げちゃお挙げちゃお！

悪霊：結婚ってこういうものだったかな……

※※※※※

こんにちは影山茂夫です。
今日は師匠を首輪で繋ぎながら第一ホテル東京に連れて来ました。
師匠にはディナーデートだと言ってあります。
「いや〜、楽しみだな」
もうすっかり首輪でのお出かけに慣れた師匠は豪華ディナーを素直に楽しみにしてくれています。
３階までエレベーターで上がって、師匠を連れて式場の扉を開けました。

「ん？モブ、これって……」
「サ、サプラ〜イズ！」
大きな教会の中に両家の人間と相談所関係のみんな、あとついでに政府の人と自衛隊の人と警察の人がいます。
「師匠、今から僕たち結婚します」
「いやお前結婚ってサプライズでするもんじゃねぇからな！？！？」
逃げようとした師匠の行手を律のバリアがバチぃっと弾きます。
「逃しませんよ……あなたはもはや影山家のものです」
「なんか奴隷商みたいなこと言ってる！！しっかりしろよ律くん、お前は義兄が俺でいいのか！？」
「ああ……やっと観念したか、としか思いません」
キッと師匠は霊幻家側の参列者を睨みます。
「あんたらも何か思わないのか！？」
「新隆……幸せになるのよ」
「だめだコイツ結婚ってワードだけで感動してやがる」
師匠はがっくりと肩を落としました。
「師匠、指輪はどれにしますか？」
僕は指輪が２０個ほど並んだケースを開けます。
「俺が知ってるプロポーズと違う！！」
「指輪のサイズが分からなかったので、いくつか用意して貰ったんです……あ、コレが合いますね。指輪交換はコレでお願いします」
ホテルの人に指輪を渡しました。
僕と師匠はホテルの人に更衣室に連れて行かれます。師匠の首輪のリードを僕が持っているので、一緒の部屋です。
「その……首輪は絶対つけてないといけませんか？ドレスと合わないので……」
「あ、今は超能力者達総出で見張ってるので、大丈夫だと思います」

僕は師匠の首輪の南京錠を外し、可愛らしい真っ赤な花の装飾が付いた首輪を外した。
「当ホテルで最も歴史のあるウェディングドレスです。霊幻様は肌

が白うございますので、きっとお似合いになられますわ」
「いやそんな大事なもの男の俺に着せちゃ問題があるんじゃ……いてててコルセットもう締めないで下さい！痛い！！」
「大丈夫、まだいけます！！本当に霊幻様は柳腰でいらっしゃる」
「ぎゃあああ」
叫ぶ師匠にくすりとなりながらも、不安になる。
「師匠、本当に僕と結婚してくれますか……？」
「あ？ここまでして結婚したいんだろ、お前」
ぜーはー言いながら師匠が答えてくれる。
「はい」
「ならいいよ。結婚してやる」
「師匠……！」
「別れる時は離婚すりゃいいだけの話だしな」
ちょっと凸レンズに踊る天井が見えかけましたが、ダメだ、ここで踏ん張らないと……！
「ならそれはあり得ない話ですね。僕が離婚に同意することは永劫ありえませんから」
「どーだか」
ぐっ……しぶとい人だな、本当に。
「……馬鹿だな、俺なんかと結婚して戸籍汚しちまって」
……ん！？なんか師匠の様子が……
進化させたいのでＡボタン連打します……！！
「いいんです、その方が幸せなんですから」
驚いた顔をして師匠が僕の顔を見ている。
「モブお前、俺と結婚式を挙げて幸せなのか？」
「そりゃそうでしょう」
「そう……か」
それきり黙ってしまった師匠のうなじがほんのり赤くて。なんだか僕まで赤面してしまう。
僕たちは無言で着付けをして貰った。

※

こんにちは影山茂夫です。
僕は今、新郎として先に入場して、師匠を待っています。
ゲートを開けて入ってきた師匠は、驚くほど美しくて。

気がつくと一筋涙が流れていた。
誓いの言葉をお互い唱えて、頬にキスをする。
それから、それから、師匠の腕を引きながら退場して。
参列者を椅子ごと浮かせまくってしまった気がするが、それ関連の音が耳に入らない。
師匠の左手の薬指と、僕の左手の薬指に、お揃いの指輪が輝いている。それに感極まってしまって、だーだーと泣いた。
「泣くなよ、モブ。後悔してるのか？」
「ぢがいまずよ！！嬉しくて泣いてるんです！！」
「……そっ、か」
！？！？あれ？もしかしてこれ……結婚式効果！？！？（論文査読中）

※

披露宴、師匠と高砂に座って、みんなからの祝福を受ける。
「いやお色直し２０回はおかしいって！！俺何回退場すれば……またかよ！！」
白無垢を着ていた師匠がホテルの人と花沢くんに付き添われて消えていく。
師匠何着ても似合うなぁ……。
師匠が白い燕尾服を着て戻ってくる。
隣に師匠がいるのが嬉しくて、僕はお酒のせいもあって、にこにこ笑いながら会場のキャンドルをふわふわ浮かせてしまった。
「……嬉しそうだな、モブ」
「ええ、僕、今、凄く幸せです」
「……隣に座ってるのがこんなオッサンなのにか？」
「何言ってるんですか。師匠だから──師匠でないと、僕は不幸になります」

ふ、と困ったように、でも幸せそうに、師匠が笑う。

「そっか。お前、本当に俺のことが好きなんだな」

「「「「「「やっとかよ！！」」」」」」

会場の一体感が凄まじかった。

「『わからせ』おめでとう！！」
トメさんや芹沢さんたちがグラスを持って乾杯しに来てくれる。
エクボも上機嫌に飛び回っている。

それから師匠には指輪がついて、首輪はなくなった。

※※※※※

こんにちは影山茂夫です。
今日はとどめをさすために師匠と子作りしようと思います。
ちょっと僕と他の女の人が会話しただけで離婚話になって僕が１０
０％になってしまうので、いい加減胃潰瘍になってしまったヨシフ
さんのためにも僕の本気を見せつけようと思います。

※

「師匠、分かりますか、今、師匠の中に子宮と卵巣が完成しまし
た」
「んっ……えぁっ、なに……？」
裸の師匠を揺さぶりながら、長々と下腹部に置いてた手で、すり、
と撫でる。
ピンク色にとろとろになっている師匠は、可愛く「んぇ……？」と
か言ってる。
うーん、筋肉と体力があるから、セックスが楽しくて仕方ない。
え？まるで師匠の身体だけが目当てみたいな言い方じゃないかっ
て？

何言ってるんですか！！身体も目当てに決まってるでしょう！？１５の時からずっと性的に狙ってた身体ですよ！？！？
ヤれればヤれるほど嬉しいに決まってるでしょう！！身体も目当て！！心も魂も目当て！！
「後は排卵させれば、師匠は妊娠確定です」
「えっ……」
師匠の顔が青くなる。
「や、やだっ、やめて、モブっ」
取り返しのつかないことに怯えているのだろう。僕の中のサディスティクな部分が、仄暗い悦びを滲ませる。
「ほおら、排卵しました」
僕の手がぼおと青白く光り、師匠の下腹部におそらく鈍い痛みが走った。
「あ……あ、やだ……」
師匠がぐにゃぐにゃで力の入らない腕で何とか逃げようと這いずり上がろうとする。のを、がしっと腰を掴んで引きずり下ろす。
「師匠、見てください、ほら、僕、ゴムしてない」
僕は師匠に見せつけるように、膝立ちになってペニスからコンドームを外していく。
「……挿れますよ」
「あ……あぁっ……」
師匠が弱々しい力で僕の胸を押し返してくる。
「……っ、はぅ……」
だけど、抵抗虚しく師匠は挿れられてしまった。
「ほら、先端が入りました。生でするの初めてですね、気持ちいいです師匠……」
「だめ……抜いて……っあああああ！」
ずずずず、と一気に侵入する。
ぽた、と散々吐精した師匠の性器が形ばかりのトコロテンをした。
「全部入りましたよ。奥まで届いてる。ほら、ここが子宮口だ」
亀頭でぐにゅぐにゅと子宮口を押しつぶしてやると、ひっと師匠が息を詰める。
「や、やめ……やめてくれ……妊娠したくない……」

「だめです」
僕はちょっと怖い顔をして師匠を見ている。
「師匠はもう僕のメスなんですから、僕の子供を産んでもらうんです」
「〜〜〜〜〜〜〜〜っ♡♡♡」
師匠が子宮をきゅんきゅん言わせながらメスイキした。この人ちょっとＭっ気あるんだよな。知ってたけど。
「じゃあ、たっぷり種付けしてあげますね」
たんっ、たんっ、と激しく腰を打ち付け始める。
「ぁんっ♡やだぁっ♡ママになるのやだぁっ♡♡」
だめです。師匠がママになるんです。
「はっ……はっ……う、出るっ」
僕は子宮口にぐいっと先端を押し付けてびゅーびゅー射精した。
「やだぁっ♡♡♡♡赤ちゃんできちゃうっ♡♡♡♡」
いや作ってんですよ。たぷん、と子宮の中で精液が揺れる音がした気がして、僕は満足げに微笑んだ。
「保育園の待機児童が１０００人越えるこのご時世にっ♡大学生とジリ貧自営業者で子供作るとかっ♡頭おかしいっ♡♡♡」
「ぐわあああああああ！！！！」
師匠にメスイキしながら正論を言われて１００万ぐらいダメージ受けた気がします。
「だ……大丈夫です、政府が全面バックアップしてくれるし、相談所のみんなも手伝ってくれるって言ってるし」
僕は復活して来たのでまた腰を振りながら、師匠に必死に言い訳する。
「一千万は……まず補助してくれる、って……っう」
またびゅるると中出しする。はー、気持ちよくて尾てい骨が震える……。
「いっせんまん♡♡♡♡」
師匠は一千万でメスイキしたみたいになってるし……。
「じゃあ♡まぁ♡何とかなるかな……っあ♡」
また復活してきた僕が動き始めたので、師匠がぴくんと足を跳ねさせる。

「も……今日はじゅっかいもっ♡やってるぅっ♡♡も、やだぁっ♡♡」
「ダメですよしっかり受精させなきゃなんですから！！」
ぱんぱんって音が、中出ししすぎてぐちゅっ！ぐちょっ！って音に変わってきた。
「やらああああ♡♡♡♡」
きらきらと綺麗な涙が流れて、白い背が何度目か分からない弓を描いた。

※※※※※

こんにちは、影山茂夫です。
今日、第一子が産まれました。
元気な男の子です。
LINEグループでのご報告、失礼しますね。ちょっと今、バタバタしているもので。
すみませんがこれで一旦失礼します。

産後の処置も終わり、やっと師匠はベッドにゆっくり横になれている。
その横の透明コフィンには、小児科医が真剣な顔をして診察をしている我が子がいた。
自衛隊の病院施設で出産した僕たちはＶＩＰ扱いだ。男性出産だから機密扱いなのもあるらしいけど。
「もう抱き上げても大丈夫ですよ」
お医者さんに言われて僕はおっかなびっくり我が子を抱き上げる。
──あったかい。
腕の中から、ジンワリと全身に幸せが広がっていく。
「パパですよ〜」
くしゃくしゃに顔を崩して笑う僕に、ほぉ、と師匠がため息のような声を出した。
「お前、本当に俺とずっと一緒にいるつもりなんだな」

「「「「「だから最初からそう言ってるでしょう
が！！！！」」」」」

何処からかみんなの声の幻聴まで聞こえてきた。
へら、と困ったように、幸せそうに師匠は笑う。
「馬鹿なやつだなあ、俺なんか選んで、好きになって……

きっとトノサマバッタと恋をした方がまだ幸せになれただろうに」

「「「「「それだけは無いです」」」」」

また幻聴のみんなの声が聞こえた。

「愛してるよ、モブ」
「僕も、愛してますよ、師匠」

最初から僕たちの間にあったのは、コレだけだ。

※※※※※

影山家：こんにちは影山茂夫です。
あけましておめでとうございます。
今年も僕と師匠と◯◯は幸せに暮らすと思いますので、お見守りのほど、よろしくお願いしますね

セリカツ：ほんとよろしくね

ヨシフ＠政府：子供が熱出したからって空を高速で飛んで医者に行くなよ　Ｊ－アラート鳴ったからな

トメ＠宇宙：くれぐれも平和をよろしくね？

影山家：こんにちは影山新隆です。すみません、私たちがご迷惑をお掛けしたようで……

「「「「「「「「ホントにな！！！！特にアンタ！！！！」」」」」」」」

完